

【全分掌】令和４年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	・１年のほぼ３分の２に及ぶ期間でコロナ禍による教育活動への制限が課せられた。本校では大規模なクラスターの発生等はなく、学級閉鎖や休業措置を取ることとはなかった。一定、感染防止対策が定着してきたと思われる。また、研修旅行や学校祭などの重要な学校行事を実施できたため、コロナ禍での教育活動の充実という目標も一定達成することができた。 ・学校全体で授業規律は保たれている。今後は、全ての生徒の学びに向かうモチベーションを高め、全ての生徒の学力伸長を図ることができるよう、ＩＣＴの活用も含めた教職員全体のさらなる指導力向上に向けた取組を継続する必要がある。 ・これまで積み重ねてきた指導の成果として、生徒の中に一定の規範意識や人権尊重の意識は定着している。今後は、自分自身で主体的に考え、より良い選択と行動ができる生徒の育成を目指したい。基本的生活習慣の部分では、全体として遅刻者数が増加しており、遅刻を繰り返す生徒への指導が今後の課題である。 ・部活動については、前期選抜Ｂ方式や１年生全員部活動等加入の取組により、体育系部活動を中心に活性化を図ることができた。女子の部活動加入率を高め、文化系部活動の活性化を図ることが今後の課題である。 ・３年生の学校紹介による就職については今年度も内定率１００％を維持することができた。また、大学入試では、学年部、進路指導部、各教科の連携により、大阪大学合格を始め、延べ３７０名以上の合格者数を出すことができた。今後も情勢を見極めながら、きめ細やかな質の高い進路指導をおこなっていく必要がある。 ・生徒の心身の状況把握に努め、学校不適應に対応した。また、特別な支援を要する生徒に対し、個別の支援計画に基づいた適切な支援を行った。 ・長欠入試で入学した生徒以外にも、年度途中で不登校となり転学していく生徒が年々増加している。この状況について一定の分析と対応が必要である。 ・コロナ禍でのさまざまな制限の中、できうる限りの広報活動を行った。その成果もあり、今年度は中期選抜でも定員を超える志願があった。この良い流れが続くように、さらなる広報活動の充実に努めていきたい。	(0) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めるとともに、Withコロナにおける教育活動の充実を図る。 (1) 不断の授業改善に努めることによって、生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を目指し、生徒の希望進路を実現する。 (2) BYODによる一人一台の学習用タブレットをあらゆる教育活動で活用し、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。 (3) あらゆる教育活動を通じて、生徒の自己有用感を高めるとともに、常に規範意識と人権尊重の意識を持ち、自分自身で主体的に考え、より良い選択・行動ができる人間づくりをめざす。 (4) 部活動においては、生徒が常に向上心を持って部活動に打ち込める環境づくりを行い、活動を通じて学校への帰属意識や母校愛の醸成を図る。 (5) 学校不適應生徒や特別な支援を要する生徒に対して、組織的に対応し適切な支援を行う。 (6) 内外における学校評価に基づき、生徒や保護者、地域のニーズを的確に把握し、教育活動の点検及び改善に努める。

評価 ４：達成できている ３：ほぼ達成できている ２：あまり達成できていない １：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和4年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
教務部	学力向上	学力向上	・学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 ・基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。				
		学習習慣の確立	・各教科、学年部と連携し、家庭学習推進週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 ・Classi等の学習ツールを活用を検討し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。				
	授業改善	充実した授業の確立	・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ・第1学年生徒には観点別評価を実施し、主体的に学習する態度を育成する指導を推進する。				
		教科の指導力向上	・主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 ・公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器の使用を促進する。				
		新指導要領への対応	・本年度第1学年で実施していく観点別評価について、生徒の状況や、校内や近隣の状況を確認しながら、調整を図る。 ・総合的な探究の時間の実施計画の具体化を図り、教職員への周知を図る。				
	図書館教育	読書内容の深化	・活字離れとマンガ中心の利用が多い現状を考え、広報活動などを通じて、活字主体の図書の利用を増やす。年間の貸出冊数の50%を活字主体の図書とすることを目指す。（昨年度39%）				
		教科・分掌との連携	・学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。				
		図書委員会活動の活性化	・生徒の意見を取り入れながら読書週間などの取組を見直し、成功させる。また、昨年度以上の広報活動ができるように、生徒に助言・アドバイスを行う。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和4年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
生徒指導部	基本的 生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・各学年・各教科と連携し、全教職員で生活面での指導を行う。また、遅刻については各担任と連携を取ることで、早期に指導し、遅刻の回数が10回を越える生徒がでないようにする。				
			・登校指導、下校指導を城陽警察や地域ボランティアとともに行うことで登下校マナーを徹底するとともに、登下校中の事故（特に自転車事故）防止に努める。				
			・授業開始時の規律を確保するとともに、タブレットや携帯電話等のルールを毎時間確認し、携帯電話等の指導を減少させる。				
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。	・全クラブで挨拶、礼儀、清掃活動などを行うことで活動の活性化を図る。また、各行事において部活動員が積極的に参加することで、学校運営の柱となれるようにする。				
			・1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。				
			・生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、地域に求められる学校となれるように積極的に広報活動を行う。また、各行事においても中心となり、学校運営の柱となれるようにする。				
	いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・職員会議等でいじめの定義について共有し、生徒について情報交換を行うことで早期に対応できるようにする。				
			・いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。				
	人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。				
			・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和4年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の進路に対する意識を高め、希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	・キャリア教育実施計画に基づいて進路学習を充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「T A G城陽」の取組を推進する。また、就職の複数応募制度や新学習指導要領に対応した新入試への研究を深める。				
			・就職補講や進学補講、土曜教室、業者模試等を積極的に実施し、生徒が自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。				
			・「進路のしおり」の充実を図り、最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、I C T機器を活用した進路指導を推進する。				
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	・健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 ・担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 ・特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。				
	校内研修	教職員の指導力向上	・hyper-QUや教育相談等をテーマとした校内研修会を実施することで、生徒理解における教職員の指導力向上を目指す。				
	安全管理	校内美化・環境整備	・感染症拡大防止のための環境整備に努める。 ・保健委員会の活動の一環として校内美化に取り組む。				
総務企画部	外部評価	学校評価アンケート等の実施手段のI C T化に係る回答数確保	・従前は紙媒体で実施していた学校評価アンケートのI C T化に伴う回答数の減少を目指し、回答数の確保にむけた工夫を凝らす。				
	家庭・地域社会との連携	P T A、各種関係機関との連携、協力を進めるとともにコロナ禍に対応した連絡手段を活用した運営に努める。	・P T A諸会議の運営に係る打ち合わせ等について、夜間の会合を精選するとともにS N Sによる連絡手段を活用したりして、P T A役員等のより効率的な連携に努める。				
	広報	地域及び次年度生徒募集に資する広報活動を行う。	・「進化から深化へ」の新たなスローガンに基づき、視覚的訴求力のある情報発信に努めるとともに、「深化」していく本校の姿を山城管内中学校・保護者・学習塾等に広くアピールしていくことを目指す。				
			・昨年度から始めた「Happy城陽高校Life動画コンテスト」や「学校紹介ナビゲーター」募集を行い、可能な限り生徒の主体的な活動を広報活動全般の中心にした展開に努める。				
			・学校説明会等の開催にあたっては、可能な限りリモート配信等の手段を用いて、遠隔地からも参加出来るような開催の方法を講じる努力をする。				
	国際理解教育	他教科・分掌と連携し、生徒がより国際的な視野を持つことが出来る内容を企画する。	・年間L H R計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味・関心をもって学習することができる内容を企画する。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和4年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
第1学年部	学習指導	学習習慣の早期定着	・タブレットの活用、学年通信等での学習に係る情報を定期的に伝えることで、学習の意義を理解させ、早期に学習習慣を付けさせる。 ・新学習指導要領の実施に伴い、受験に向けての情報収集や新教科・科目の内容等について、各分掌・教科と連携し、2年次以降のコース・科目登録にしっかり対応させる。				
	生徒指導	ルールの遵守、人権尊重の意識の定着	・様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させたいうでの継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。				
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	・部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。				
第2学年部	特別活動 生徒指導	規律、規則の重要性を理解し、自ら考え、改善に向かえる力を身に付けさせる。	・時間の遵守、挨拶の徹底等、人と関わっていく中で必要最低限のことを前提として、自ら考えて行動できる個人を育成し、規律ある集団の醸成を図る。				
			・各種学校行事を計画的にすすめ、生徒の主体的な活動を育成する。研修旅行を軸とし、学校への帰属意識を高めていく。				
	進路指導 学習指導	進路実現のために、自らの進路について真剣に考えさせ、その実現のための学力向上を目指すように指導する。	・丁寧な進路指導を行い、早期に進路目標、またはそれに値するものを持たせ、進路実現に向けた具体的な見通しを立たせる。進路実現に向け、日々の学習に前向きに取り組ませ、自ら学ぶ姿勢と学力の向上を図る。				
第3学年部	特別活動 生徒指導	下級生の範となるべく、節度ある行動を実践できるように心掛ける。	・主体性や思考力、協調性の成長を促す。				
			・各分掌や関係機関と連携して進学や就職に向けた適切な指導を行う。				
	進路指導 学習指導	希望する進路の実現に向けて努力を重ね、成功体験を実感できる機会を与える。	・担任・教科担当・進路指導部が一体となり、保護者と連携を図りながら希望する進路の実現に向けて模索することで、自ら学ぶ姿勢と、学力の向上を図る。				
			・学習環境を整え、目標に向かって最後まで努力する姿勢を養う。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和4年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	・学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。				
			・来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。				
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けられるための経済的支援体制の充実に貢献する。	・就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようClassiやホームページの活用をより進める。				
			・生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。				
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。 特に新型コロナウイルス感染症対策のための施設設備の運用方法等について、留意する I C T環境野整備を図る。	・状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。 令和4年度に実施される2棟トイレの全面改修工事について工事日程等をClassiを活用し迅速に生徒・職員・保護者等の関係者に伝達するよう努める。また、工事による生徒への影響を極力低くする工夫を行う。				
			・新型コロナウイルス感染症対策のため、室内の換気や手洗いが充分に行えるよう留意するとともに、点検を充分に行う。				
			・I C T環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。				